

活動 報告書

2020
年度



認定NPO法人 中部リサイクル運動市民の会

2020年度を 振り返って

はじめに、新型コロナウィルス感染症によりお亡くなりになられた方々やそのご家族の皆さんに謹んでお悔やみ申し上げます。また、罹患され現在も苦しい状況におかれている方々へは心よりお見舞い申し上げます。加えて、最前線で対応してくださっている医療従者の皆さんへは深い敬意と感謝を申し上げます。

2020年度は弊会でも、リユース＆リサイクルステーションの開催時間短縮、JICAの廃棄物管理研修の中止など、新型コロナウィルス感染拡大の影響をさまざまな形で受けた、大変な一年となりました。この1年、各現場で懸命に対応してくださったボランティアの皆さん、スタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。

コロナの対応に追われた一年でしたが、明るい話題もありました。障がい者の就労支援をしている「NPO法人アダージョちくさ」と立ち上げた新店舗「Re☆ショッピングなかた by ぐるっぺ」のオープンがそれです。中部リサイクル単独でRe☆ショップを増やすことが困難な中、アダージョちくさと立ち上げた協働店舗は、今後のリユース活動を広めていくうえでのモデル事業となります。

我々が進めるリユース活動が、障がい者の皆さんの就労支援となり、協働店舗の収益でお互いの団体の活動が持続可能な状態となることが理想とする未来像です。

最後になりますが、2020年度も会員の皆さんをはじめ、多くの皆さまのご支援のもと活動を続けられることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

代表理事 永田 秀和



2020年度活動

中部リサイクル運動市民の会では、以下の活動を2020年度に実施することができました。皆さまのご協力・ご支援に心より感謝するとともに、その内容と成果の一部を「活動報告1～4」でご報告します。

● 地域循環型市民社会システムと場づくりに関する事業
非営利団体とのネットワークへの参画、環境配慮型商品の普及など

● ごみ減量に関する事業
リユース&リサイクルステーションの運営、Re☆創庫（りそうこ）・Re☆ショップ（りしょっぷ）の運営、チャリティBOXの運営など

● 環境に関する知識の普及及び啓発事業
環境教育活動、記念日植樹券プレゼント事業など

● 障がい者の就労支援に関する事業
リユース&リサイクルステーション、Re☆創庫での障がい者の活動受け入れ、Re☆ショップの共同運営など

● 災害時の物資供給や救援に関する事業
被災地への募金活動など

● 開発途上国・地域における環境・社会問題解決に関する活動
国際協力機構（JICA）による開発途上国向け廃棄物管理研修の企画運営など

活動報告1 地域循環型市民社会システムと場づくりに関する事業

活動報告1-1 なごやハートステーションプロジェクト

家庭に眠っている不用品のリユースや、羽毛製品のリサイクルのため、名古屋市市内の障がい者福祉施設等にそれらを回収する「ハートステーション」を設置するプロジェクトです。2020年度は地球環境基金の助成を受け、ウェブサイト・パンフレット・ステッカーなどの広報ツールを作成しました。



社会福祉法人すぎなに集まった羽毛の選別作業

集められた羽毛製品は「社会福祉法人すぎな」で解体され、「河田フェザー株式会社」でリサイクルされます。また、寄付された不用品は中部リサイクルで選別・リユースされ、回収量に応じてハートステーションに手数料が払われる仕組みです。資源循環を広げつつ障がい者支援につなげようと、社会福祉法人・企業・NPOの連携で活動に取り組みました。

担当者の声



連携する団体さんとなかなか直接お会いできない中、ウェブ会議を重ね、力を合わせて広報ツールを作ることができました。それぞれの団体から届く日々の活動写真を「なごやハートステーションプロジェクト」のインスタグラムにアップしています。ぜひフォローをお願いします！
(事務局次長／庄司 里美)

活動報告1-2 日本チャリティショップ・ネットワークへの参画

2015年12月に正式に発足した「日本チャリティショップ・ネットワーク」では、日本各地でチャリティショップを運営している非営利団体が連携し、寄付文化を広め、チャリティショップの価値や認知度を高めるための活動を行っています。

2020年度は、9月に講演会「チャリティーショップへ行こう！」、2月に勉強会「衣類のリユース・リサイクルの現状と課題」を開催しました。また、日本国内のチャリティショップの現状やチャリティショップが取り組む社会貢献活動、チャリティショップの今後の可能性などをまとめた『チャリティ

ショップ白書』(B5サイズ・44ページ・1,000部)を発行しました。

2021年度からは、中部リサイクル運動市民の会が事務局を担当することになりました。



『チャリティショップ白書』の表紙

活動報告-2 ごみ減量に関する事業

活動報告2-1 リユース&リサイクルステーション

家庭から排出される10品目のリサイクル資源と12品目のリユース品を、スーパー・マーケットなどの駐車場で定期的に回収する活動です。「リサイクルステーション」としては1991年から継続実施しています。市民・企業・行政・メディア・NPOがそれぞれの役割を担い、この活動を支えています。2021年4月現在、名古屋市内に常設を含め27会場あります。(2020年度に5会場閉鎖)

2020年度は新型コロナウイルスの拡大や財政的な問題から、会場や開催回数の削減、開催時間の短縮、市民リサイクラー(ボランティア)の人員配置や謝金体系の変更など、抜本的な改革に取り組みました。その結果、リサイクル資源の回収量は726トン(前年度比69%)となりましたが、コロナ禍の巣ごもり効果でひと開催あたりのリユース受付件数は伸び、全体的な効率・費用対効果を向上させることができました。

●活動実績(3か年比較)

	2020年度	2019年度	2018年度
会場数	27会場	32会場	37会場
総回収量	726トン	1,046トン	1,207トン
延べ開催回数	777回	1,047回	1,155回
延べ持ち込み件数	59,729件	88,378件	98,501件
延べリユース受付件数	11,731件	12,618件	11,983件



エクボ辻町のステーションの様子。開催時間が10~14時から10~12時に、市民リサイクラー3名体制から2名体制に。

担当者の声



以前からステーションの効率化は課題でしたが、コロナの影響を受け、急きよ仕組みを変える必要性に迫られました。短期間のうちにさまざまな変更をしたこと、利用者や市民リサイクラーの皆さまにご不便やご苦労をおかけしました。今後は効率性を追求しつつも、利用者や市民リサイクラーの想いに寄り添える活動にできればと思います。(副代表理事／和喜田 恵介)

活動報告2-2 物流センター

2019年に立ち上げた施設です。リユース&リサイクルステーションおよび各ショップで受け取った寄付品の仕分け・保管・出荷作業をしています。

これまで各店舗で行っていたリユース品の仕分け作業を一か所にまとめることで、リユース事業全体の効率化を図り、リユース商品を各店舗に適正量配分することを目的に立ち上げました。

担当者の声



2020年度はコロナ禍の巣ごもり効果で、家の片付けをされる方が顕著に多くみられました。その影響でリユース品のご寄付が増加し、物流センターは寄付された品々で溢れています。これからも善意の品々を大事にし、ショップに供給したいと思います。(物流センター担当スタッフ／工藤 隆仁)

コロナ禍のステイホームで多くの方が自宅の片づけをしたこともあり、平時よりも寄付品の量が多かったように感じました。

仕分け作業の効率化、値段設定の適正化、在庫数量の適正管理など課題山積ですが、一つずつ着実に進めていきたいと考えています。(永田 秀和)



作業動線が整いつつある物流センター

活動報告2-3 エコロジーセンターRe☆創庫あつた

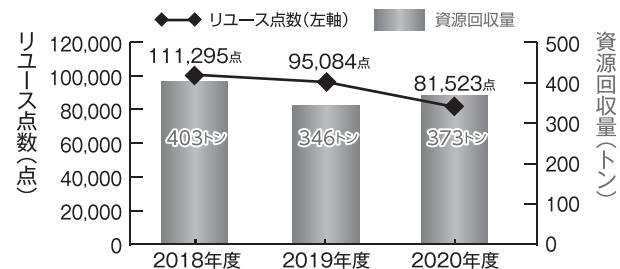
名古屋市熱田区で2010年にオープンしたRe☆創庫1号店です。2020年度の施設利用者は延べ16,634人、リユース点数81,523点、リユース売上は約1,386万円、資源回収量は約373トンとなりました。(新型コロナウイルスによる休業のため、約10か月の実績)2020年度はマネージャー1名、サブマネージャー1名、Re☆創庫担当スタッフ1名、10名の市民リサイクラーで運営しました。(2021年3月現在)

10年目を迎えたRe☆創庫あつたですが、思いもかけない新型コロナウイルスの感染の拡がりを受けてリニューアルオープンが2か月遅れの5月末になりました。6月に開催予定



店内に設置した展示用の棚

だった「10周年祭」も開催できませんでしたが、お客さまが明るく見やすくなった店内を楽しむ様子に、スタッフ一同喜んで作業に取り組みました。



担当者の声



2020年5月末にリニューアルオープンしましたが、非常事態宣言の影響もあり、思ったほどお馴染みのお客さまが戻られず心配しました。その中で新規の方が来店され、客層が広がったように思えます。物流センター経由での商品の流れに当初戸惑いもありましたが、「少しでもお客様に還元を」と皆で協力し取り組みました。

(Re☆ショップあつた マネージャー／山田 美由紀)

活動報告2-4 エコロジーセンターRe☆創庫さくら

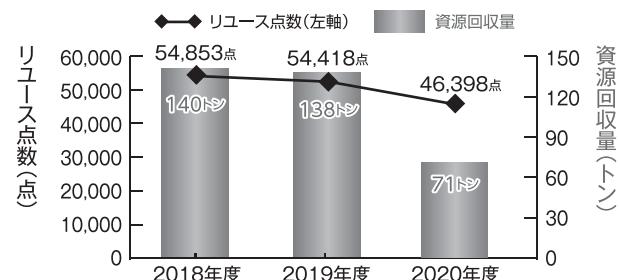
2014年に、障がい者支援に取り組む「(社福)親愛の里」との連携により名古屋市南区にオープンしました。2020年度の施設利用者は延べ12,057人、リユース点数46,398点、リユース売上は約1,080万円、資源回収量は約71トンとなりました。(新型コロナウイルスによる休業のため、約10か月半の実績)2020年度はマネージャー1名、9名の市民リサイクラーで運営しました。(2021年3月現在)

2020年度は、コロナ禍の中、すぐに1か月半の休業に入りました。再開後は、それまで行っていた「くるくるデー」や「周年祭」などのイベントができなかつたので、感染予防対策をしっかりした上で、9月に「さくら感謝祭」、年末に「歳末大売り出し」を行いました。気持ちばかりの粗品やクーポン券



歳末大売り出しの様子

を進呈し喜んでいただけました。新しい形で売上を確保するための企画を模索した一年でした。



担当者の声



この一年はコロナに振り回されました。まだ終息の気配もなく、不安な気持ちは消えません。そんな中、お店の中でお客さんの笑い声や「楽しかったあ」という声が、大きな力に変わっていることに気が付きました。8周年に向け、力をいただいているお客様に恩返しができればと思っています。(Re☆創庫さくら マネージャー／浅井 久美)

活動報告2-5 Re☆ショップよしの

2014年にオープンした、資源回収は行わず、リユース品の販売と受付のみ行う店舗です。2020年度の施設利用者は延べ7,385人、リユース点数23,950点、リユース売上は約466万円となりました。(新型コロナウイルスによる休業のため、約10か月半の実績)2020年度はマネージャーやスタッフは常駐せず、11名の市民リサイクラーで運営しました。

(2021年3月末現在)

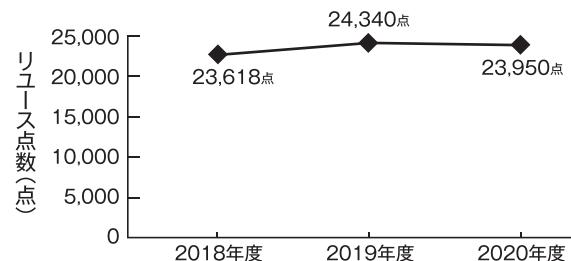
2020年度は緊急事態宣言で1か月半ほどの休業からスタートでした。5月末より感染対策を取り営業再開しました。お客様が密にならないよう値引きイベントは自粛しました。このような状況の中でも、少しでもお買い物を楽しんでいただ

担当者の声



物流センターが完成し、週に2回商品が届くようになりました。品目によってRe☆ショップよしのでも値付けをしています。最初は少々戸惑いながらでしたが、今では皆さん手慣れた様子で作業されています。出した商品がすぐに売れ、商品の回転もよくなっています。今後も市民リサイクラーの皆さんと一緒によしのを盛り上げていけたらと思います。(Re☆ショップよしの 担当スタッフ／松原 和江)

けるよう、10月にお月見、12月にクリスマス、絵本、2月に猫をテーマにしたフェア、1月は小規模ながら初売りを開催。例年行っている春と秋の「リユースキャンペーン」も行いました。



お月見フェアの様子

活動報告-3 障がい者の就労支援に関する事業

活動報告3-1 Re☆ショップなかた by ぐるっぺ

2020年9月にオープンして6か月、リユース品の販売と受付、自主制作の雑貨を取り扱っている店舗です。施設利用者数は延べ2,888人、リユース点数8,132点、リユース売上は約234万円となりました。運営主体は「NPO法人アダージョちくさ」で、スタッフは常勤1名と、障害のあるスタッフ6名、福祉の勉強をしている学生アルバイト4名で運営しています。

オープンして3か月目の12月には「歳末セール」を行い、2日間で延べ158人ものお客様に足を運んでいただけ

ることができました。その他にもバレンタイン、ひな祭り、桜柄の物を集めたフェアなど、月に2回は何かしらのフェアを開催して、目新しい売り場作りに励んでいます。今年9月には1周年祭を予定していますので、お客様の安全を確保しつつ楽しんでいただける企画にできるよう準備を進めています。

QRコードを読み取って
インスタグラムを見てみてください。



クリスマスフェア

担当者の声



当店は障がいの方の就労訓練も兼ねて、このリユース活動に参加させていただいている。初めは商品にバーコードを貼ったり品出しをしたりするのも時間がかかっていましたが、スムーズに作業ができるようになってきました。新しいお客様にも知っていただけるようにインスタグラムも始めました!ぜひご覧くださいね。(Re☆ショップなかた スタッフ／駒井 可奈子さん)

活動報告-4 環境に関する知識の普及及び啓発事業

活動報告4-1 記念日植樹券プレゼント事業

2001年から継続している中部電力(株)との協働事業です。この事業の目的は、自分の手で木を植える体験や、NPOの植樹活動に植樹券を寄付することを通じて、環境問題への気づきや環境行動を広げることです。2020年度で20周年を迎え、これまでに66,000人を超える方々と13団体のNPOとともに、44万本以上の苗木を国内外に植樹してきました。

2020年度は20周年記念として、抽選で500名に観葉植物をプレゼントする企画と、過去に苗木を受け取られた方から苗木の成長の様子とエピソードを募集する企画を行いま



過去に苗木を受け取られた方から届いた成長した苗木の写真



20周年記念座談会の様子

した。また、これまでの記念日植樹券事業で連携した植樹NPO、中部電力(株)、中部リサイクル運動市民の会が集う「20周年記念座談会」を開催し、記念日植樹券の成果や今後の展開について語り合いました。これらの活動は『記念日植樹券事業 20周年記念報告書』としてとりまとめました。(ウェブサイトで公開予定)

記念日植樹券事業としては2020年度でいったん区切りを付け、2021年度から新しい形の活動を模索していくことになっています。



『記念日植樹券事業 20周年記念報告書』



あの時の苗木は「今」

2000年に長男が生まれ、2001年に苗木が当選したので、ちょうど息子と同じ年。あれから息子の成長と共にレモンの収穫を楽しみながら、ここまで来たんだなあと思い返しています。



活動報告-5 開発途上国・地域における環境・社会問題解決に関する活動

活動報告5-1 JICA研修「総合的な廃棄物管理」

2015年から継続していたJICA(国際協力機構)の研修事業ですが、2020年度は新型コロナウイルス拡大の影響で2021年度に延期となりました。廃棄物管理研修は現場視察を中心のため、海外の研修員が日本に来られない状況では効果

を上げることが難しいことが理由だと思われます。

JICAからの情報によると、2021年度はオンラインでの実施となる模様です。

活動報告5-2 JICA「草の根技術協力事業」

2018年度にJICA草の根技術協力事業として採択された「コミュニティ主体の資源ごみ回収活動の普及促進事業」。活動場所はラオスのビエンチャン市です。2020年度から開始する予定でしたが、新型コロナウイルス拡大の影響でプロジェクトの契約手続きを完了することができませんでした。

すでに、ラオス国内で活動するために必要な「Operation Permit(オペレーション・パーミット=活動許可書)」は取得しましたので、今後はJICAと中部リサイクルの間で契約手続き

を行い、最後にラオス政府・中部リサイクルで合意文書を交わすという流れになります。

2021年度中の活動開始を目指しています。



ラオス外務省から発行された活動許可書

ご協力、本当にありがとうございます！

●以下の企業の皆さまから協賛金をいただきました。(五十音順)



●新聞折込チラシ・新聞・フリーペーパーで開催告知協力ををしていただきました。

名古屋市内の中日新聞販売店などで構成されている「名古屋リサイクル推進協議会」には折込チラシ「リユース＆リサイクルステーションご利用ガイド」の作成と配布(偶数月／各回25万部)を、「中日新聞」「環境情報誌Risa」には紙面での告知協力ををしていただきました。



●助成金をいただきました。

なごや
ハートステーション
プロジェクト



●多くの皆さんに支えていただきました。

雨の日も風の日も、現場を運営していただいている市民リサイクラーの皆さま(登録者数100名)や会場提供事業者の皆さま、事業協力金や広報で協力していただいた名古屋市など、さまざまな方々にステーションを支えていただきました。

●会員として活動を支えていただきありがとうございます。
今後も、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

2020年度末時点			
会員種類	人数	会員種類	団体数
個人正会員	29名	団体正会員	12団体
個人賛助会員	104名	団体賛助会員	8団体
合計			153名・団体

団体情報

会員になって活動を支えてください！

会員特典

- 会報を定期的にお届けします。
- 主催イベントに割引価格で参加できます。(正会員のみ)

入会ご希望の方はこちらまで

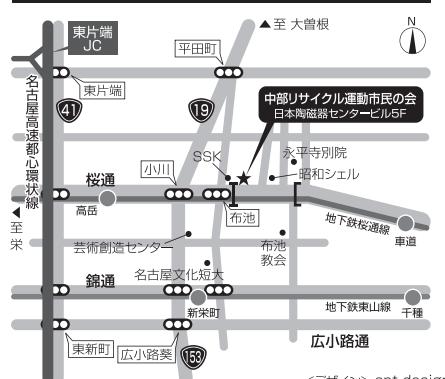
認定NPO法人 中部リサイクル運動市民の会

お問い合わせ／〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5F TEL.052-982-9079 FAX.052-982-9089

メール staff@es-net.jp ホームページ <http://www.es-net.jp>

正会員 (議決権あり)	個人	一口 10,000円
	団体	一口 20,000円
賛助会員 (議決権なし)	個人	一口 3,000円
	団体	一口 10,000円

事務局へのアクセス



<デザイン> ant design